

高度リサイクルと広域物流

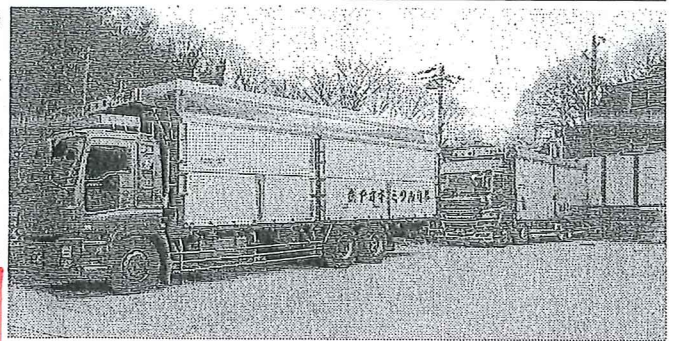
原・燃料を陸送で供給

廃ゴム資源化軸に事業拡充

アオキミツル商事（本社・神奈川県茅ヶ崎市、青木三留会長、☎0467・54・0768）は廃タイヤの高品質チップ製造や油化・炭化の事業、廃ゴムクロール資源化の技術開発などを継続する中で、製紙・化学企業から代替燃料などの運送依頼が増加したことを受け、RPFや木くずチップ、製紙原料チップまでを広域的、効率的に配送するネットワークを構築した。今後はさらに各地の提携会社と協力して、北海道から東北、関東、中部、中四国を結ぶ陸送システムを確立する。

分解方式による廃タイヤチップや廃ゴム製品の炭化、08年には油化を開始。これまで10年以上安定した稼働を続けている。

現在は2年以上の間を掛けて廃ゴムクロールの自動芯金抜き機と防眩材の削り機を開



60㎡を積載可能

する予定
だ。
高品質タ
イヤチップ
や新技術実
用化が評価
され、全国
各地の需要
家企業から
タイヤチッ
プ以外の運
送について
も依頼が増
えたことを
受けて、R
PFや木く
ずチップ、
製紙原料チ
ップなどを
発している。どちらも
完成し次第特許を申請
まざまなものを運搬す
るようになった。依頼
に心えるため、現在申
請中の許可も含めて30
都府県16品目の取り扱
いを目下の目標に、6
月には実現する予定
だ。

さらに広域的、効率的な輸送に対応するため、自ら60立方メートル積載のコンテナ車両を5台購入するとともに、各地の協力業者との連携体制も整備している。

青木会長は、「信頼関係が最も重要。人の輪を大切にしつつ、仕事を肅々と続けたい」と述べている。

発している。どちらも完成し次第特許を申請

まざまなものを運搬す

同社は1985年の設立で、廃タイヤをはじめとする産業廃棄物の収集運搬、中間処理を手掛けてきた。

芹沢工場（茅ヶ崎市）で行っている廃タイヤのチップ燃料化（切断、破碎）では、製紙など需要家企業の設備負担

を軽減するため、大型のTBタイヤのみならず、小型の乗用車のタイヤの

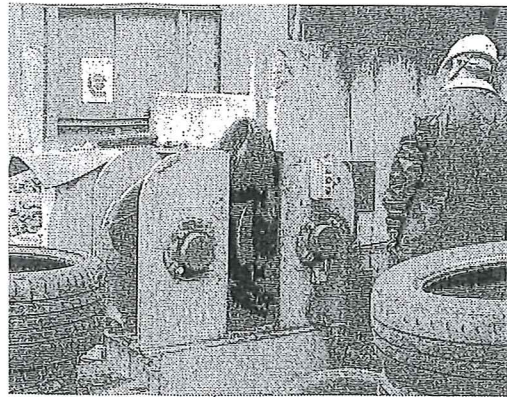
を軽減するため、大型のTBタイヤのみならず、小型の乗用車のタイヤの

車タイヤについても、ビードワイヤーの抜き取りを地道に続けてきた。その結果、製紙大手の複数工場から受注が来るようになり、化学大手からも受注が来るようになった。現在では1カ月当たり700〜800トンを加工しており、製品を安定的に出荷している。

廃タイヤや廃ゴム製品のリサイクル技術開発も進めてきた。2007年には新設した寒川工場（神奈川県寒川町）で、虫目開き熱

車タイヤについても、ビードワイヤーの抜き取りを地道に続けてきた。その結果、製紙大手の複数工場から受注が来るようになり、化学大手からも受注が来るようになった。現在では1カ月当たり700〜800トンを加工しており、製品を安定的に出荷している。

廃タイヤや廃ゴム製品のリサイクル技術開発も進めてきた。2007年には新設した寒川工場（神奈川県寒川町）で、虫目開き熱



乗用車のタイヤのビードも丁寧に抜いている

車タイヤについても、ビードワイヤーの抜き取りを地道に続けてきた。その結果、製紙大手の複数工場から受注が来るようになり、化学大手からも受注が来るようになった。現在では1カ月当たり700〜800トンを加工しており、製品を安定的に出荷している。

廃タイヤや廃ゴム製品のリサイクル技術開発も進めてきた。2007年には新設した寒川工場（神奈川県寒川町）で、虫目開き熱

車タイヤについても、ビードワイヤーの抜き取りを地道に続けてきた。その結果、製紙大手の複数工場から受注が来るようになり、化学大手からも受注が来るようになった。現在では1カ月当たり700〜800トンを加工しており、製品を安定的に出荷している。

廃タイヤや廃ゴム製品のリサイクル技術開発も進めてきた。2007年には新設した寒川工場（神奈川県寒川町）で、虫目開き熱

車タイヤについても、ビードワイヤーの抜き取りを地道に続けてきた。その結果、製紙大手の複数工場から受注が来るようになり、化学大手からも受注が来るようになった。現在では1カ月当たり700〜800トンを加工しており、製品を安定的に出荷している。